



会員企業を訪ねて

世界のキーロックメーカー ～難無き所に良品なし～

株式会社ホンダロック

記事作成

学生会員 藤 圭亮 九州工業大学 情報工学府 情報システム専攻
 広報委員 伊藤 高廣 九州工業大学 情報工学研究院

取材日：2013年9月24日

1. はじめに

雲一つない快晴の中、やわらかな残暑を感じながら賛助会員企業である株式会社ホンダロックを訪問した。今回の訪問では、清文博総務課長、比良貴浩基幹技術課技術主任さらに野田雄一郎基幹技術課長に会社概要の説明および工場案内をしていただいた。



写真1 本社入口にて
 (左から清さん、伊藤、藤、野田さん、比良さん)

宮崎県佐土原町に設立され、現在ではアメリカ、中国、タイなど海外に拠点を増やしグローバル化を展開している。従業員は国内だけで約1200名。主力製品は自動車および二輪車用キーセットであるが、アウトサイドドアハンドル、ドアミラー、ABSホイールセンサーなどの生産も行っている。



写真3 左. ABS ホイールセンサー
 右. EPS トルクセンサー

2. 会社概要

株式会社ホンダロックは自動車用機能部品、主にキーロックメーカーとして1962年に創業された。創業者本田宗一郎氏の「産業の発展していない場所にこそ近代工業を根付かせたい」というチャレンジの意志から、



写真2 本社外観

3. キーセット

ここ数年で、自動車や二輪車における「キー」というものに劇的な変化が起きている。従来までのキーのような鍵穴に差し込んでドアの開錠およびエンジンスタート・ストップを行う、いわゆる[メカニカル]なキーではなく、「スマートキー」と呼ばれる電子機器を内蔵したキーが主流となっている。これは、キー自体をユーザーが所持している状態で車体のスイッチを押すだけで、ドアの開錠やエンジンの始動・停止が可能となっている。このシステムにより、毎回わざわざキーを取り出す手間を省くことができ、キーと車体間の電波の種類を増やすことで従来品よりも多くの種類のキーセットが生産できるという利点がある。

このスマートキーシステムの導入に伴い生産された、イモビライザーと呼ばれる車両盗難防止システムを写真5に示す。キー側と車両側から相互に電波を出しており、正しいキーの電波が照合された場合のみエンジンが始動する仕組みとなっている。



写真4 スタートストップスイッチ



写真5 キー及びイモビライザー

4. 自社の強み

スマートキーは電子部品が組み込まれているため、当然ながら電池を使用する。そこで発生する問題が、スマートキー自体の電池切れである。この場合、電波による車体との通信ができなくなるためドアロックを解除することができない。その際に使用するのが、スマートキーに取り付けられているエマージェンシーキーである。(写真6) このエマージェンシーキー自体は従来までのメカニカルなキーになっており、このキーを作製する技術はホンダロックが得意とする領域である。従って、スマートキーにおける電気的な部分と、エマージェンシーキーのメカニカルな部分を自社のみでまかなうことができるという点が強みと言える。

また、工場見学の際に我々が最も印象深かったことが、工場内の徹底された美しさである。キーセットを主要製品とした工場であるため、当然ながら精密かつ清潔な生産環境が要求される。当工場では、3S活動の徹底や多くの女性作業者の活躍により、非常にキーセットなどの製品に適した生産環境が整えられている。



写真6 エマージェンシーキー

5. 環境・地域活動

ホンダロックでは、地域社会への活動としてサッカー一部をはじめとしたクラブ活動や、交通安全指導、海辺の清掃活動などを行っている。また、近隣の小学生に対する工場見学なども開催しており、地域と密着した交流を大切にしている。



写真7 左. ビーチクリーン活動

右. ホンダロックサッカー部

6. おわりに

今回の訪問の最後に、清さんや他の方々に改めてお話を伺うことができた。今後、就職を考えている学生に対して比良さんより「5年後、10年後のヴィジョンを考え、自分が将来何をやりたいのか明確にすることが大切」との助言を下された。また、野田さんより「1度就職してしまうと、学生時代と違い勉強をする時間がない。学生の間に基礎的なこと、例えば機械工作法や機械要素についての知識などをなるべくたくさん得ることが重要」と語って下さった。

産業やインフラなどほとんど何もなかった宮崎のこの地からスタートし、今や世界中の自動車及び二輪車のキーロックシステムを担うホンダロック。そこには、どんな困難な状況にもあきらめず絶えず新しいことにチャレンジする精神があったからこそ得られた信頼と実績があると確信した。